

平成20年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時：平成21年 3月 3日（火） 13：00～16：00
 場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー（敬称略） 評議会委員

大西 庸子	木庸社代表
塚本 次郎	高知大学農学部教授
本多 照昌	(株)元見屋酒店代表取締役（前愛媛県林業経営者協会会長）
オブザーバー	
多田 弘之	四国森林管理局計画部 指導普及課長
松岡 良昭	高知県立森林技術センター 所長

2. 議事次第

- 1) 開会挨拶
- 2) 出席者紹介
- 3) 平成20年度研究活動等の概要説明
- 4) 研究の実施状況と成果（4名が報告）
- 5) 業務運営及び地域ニーズに関する意見交換
- 6) 講評
- 7) まとめ
- 8) 閉会挨拶

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項目	意見・指摘事項等	対応方針等
研究推進につ	・四国地域におけるシカ害は深刻であり、林業経営者にとっては死活問題にもなり得る。何らかの対策を講じてもらいたい。 ・本来は現場からの要請等が行政を動かす大きな力になるが、林業関係者はハンターも含め、数が非常に少ないため、現場の声が行政まで届きにくい。 ・香川県は林野率が少なく、少数の自伐林家が存在するに過ぎない。現在、30%の間伐率では採算が取れないといわれている林業経営において、採算ベースに乗せるためには「強度間伐」プロジェクトの内容を広げてもらい、その成果が経営者の指導や普及につながることを期待する。	・森林総研が行う研究では、シカ被害を直接減らすというものではなく、被害を軽減させる行政施策を後押しするためにバックデータを提供している。 ・やはり最終的には駆除の事業実施は自治体で行ってもらわなければならない。研究職員ができる範囲は限られているが、関連する検討会や広報面も含め、被害軽減策実施の重要性をあらゆる場面で訴えていくことが重要と考えている。 ・同プロジェクトには伐出担当グループも参画しており、コストポテンシャルマップも計画されているため、一定の成果は期待される。21年度は研究終了年度でもあり、目に見える形で成果の公表を行いたい。また、来年度はマニュアルを作成する予定。

い て	・独法を取り巻く情勢等から、社会的な有用性を念頭に置いて研究を進められていることは理解できるが、県の研究機関とは異なるスタンスを持つておく必要もある。「森林動態長期モニタリング」や「強度間伐」や「外来生物」など、このような世の中だからこそ長期的な視野で取り組む研究も大事にした方が良い。 ・林業がこれだけ低迷すると（社会的には）環境問題が主になってしまい、研究所もその流れに押し流されてしまうのではないかと心配していたが、研究課題の3分の1程度は林業経営分野になっているため安心した。今後は更に大小の規模に拘わらず林業経営者が自立できるための総合的なシステムを開発して欲しい。 ・四国支所はいろんな分野の研究がされていて、心強い存在である。「強度間伐」については早く良い成果が出たらよいと思う。シカ被害問題については、四国森林管理局でも対策に向けた組織作りを考えている。今後とも四国支所の協力をお願いしたい。 ・四国支所では12名（管理職除く）の研究者で27課題を担当されていることがわかり、驚いた。県の研究機関も4月から組織再編が行われ、森林技術センターは二酸化炭素吸収源対策、廃棄物処理などの環境対策部門も管轄する「林業振興・環境部」に所属することになった。 高知県の産業振興計画における林業分野では、林業・木材産業の再生、木質バイオマス、健全な森造りなど4つの柱が構築される。森林総研は研究面、技術面での蓄積が多いので、今後とも協力・共同して研究活動を行っていききたい。	・大変心強いお言葉ありがとうございます。森林総合研究所では基礎研究の分野もおろそかにしているわけではないが、今後とも努力する。 ・昨年10月のブロック会議で、愛媛県林業研究センターから林業経営における優良事例を集め、それらの事例を集積して情報提供するような研究を四国ブロックでやってはどうか、という提案がされた。これらについても、地域林業支援研究会（仮称）の中でもしっかり論議し、対応していきたい。 ・四国支所としてもしっかり取り組みたいので、引き続きよろしくをお願いしたい。 ・提案中の「低コスト育林」でも協力願っているし、また高知県では木質バイオマスなど、四国支所にはない分野の研究も行っていることから、今後とも連携を強めたい。
地 域 連	・地域林業支援研究会（仮称）の分科会には四国支所でカバーできない分野（林業機械、特産、バイオマス）もあるが、それらの対応はどうするのか？	・今後の進捗状況を考慮しながら、必要に応じ、本所の研究領域等に橋渡しをしていくことを考えている。

携 に つ い て ・この取組が順調に進めば、これまで以上に横の繋がりを活かした研究活動に発展するため、大いに期待している。 ・地域ニーズを把握するシステムは四国支所としてあるのか？ ・県内で実施される（県主催）の関連会議（例えば指導普及員の会議）等に積極的に参加する事なども考慮してはどうか。	・今後は大学、NPO法人等にも参画してもらうべく、取り組みを強めたいので皆さま方にもご協力をお願いしたい。 ・ダイレクトにはない。林業開発推進会議、ブロック会議、林政連絡協議会あるいは評議会も含め、あらゆる会議等がニーズ把握の場として位置づけている。 また、（HPや電話等を媒介とした）四国支所に対する質問・相談内容についてもそれに当たると考えている。 ・今後の参考にさせていただきたい。
---	--